

## 【ワーク 14-9】「なぜ人は陰口を言うのか？」解説

陰口への上手な対応の仕方

### 1. 陰口を言われた時に本人が取ると良い対応

- ① その陰口が事実でない場合は事実ではないことを、落ち着いたトーンで（興奮したり泣いたりしないで）相手に伝えるようにします。いじめの加害者はリアクションを楽しみたいので、その陰口にふりまわされないで平然としているところを示すことができるように、こころのなかでコントロールするようにします。
- ② 先生、養護教諭、SC、親などの大人に相談する。
- ③ SNS 上の陰口はなりすましの場合もあるので、その場で即反応するのではなく画面を保存し、大人に相談するなどの慎重な対応が必要です。

### 2. 陰口を聞いた人の対応

陰口を広める場合、最初に言い出した人は悪意があっても、それを聞いて広めている人の中には悪意はない人も多いかもしれません。言われている本人のことをあまりよく知らない場合などは特に、言われてどんな気持ちになっているかを思いやる気持ちは湧きにくい場合があります。しかし、悪意なく広めたとしても、それによって広められた人の名誉が傷ついたり、不利益をこうむる可能性が高く、辛い思いをさせることになるのですから、陰口を広めることはいじめです。陰口は、尾ひれがついて事実がゆがんで伝わりやすい、誹謗中傷※へと転じる危険があります。いじめに加担しないためには、陰口を聞いてもそれを他の人に伝えないことが大切です。子どもはこのことに気づきにくいので、皆さんが教師等になったら、児童生徒にもワーク 14-9 の内容を考えさせて、陰口を止めることの大切さに気づかせて欲しいと思います。

※誹謗中傷とは根拠のない悪口を指します。